

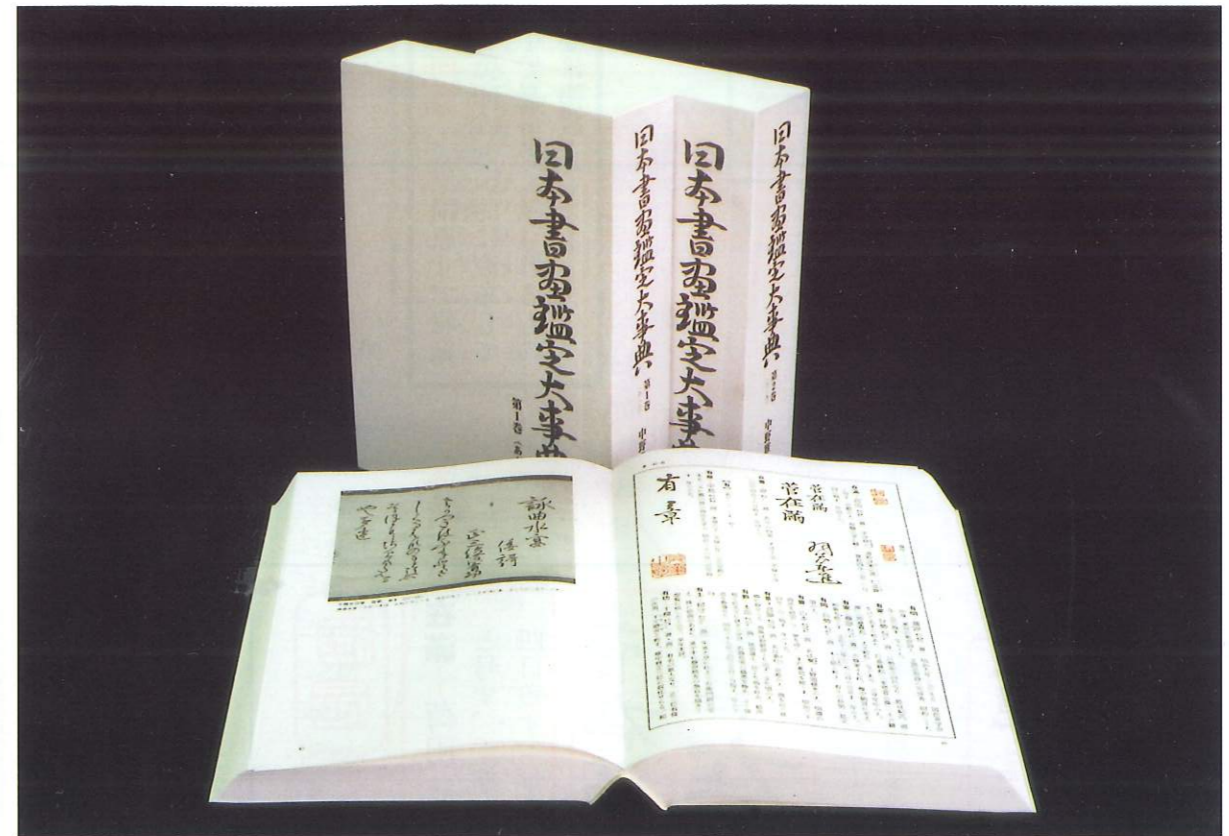
# 日本書画鑑定大事典

全9巻 別巻2

中野雅宗 編著



収録人員四万八千名、印影落款約五万八千点収録!



古代から平成初期まで  
日本書画の作家を網羅した画期的事典!!

第1回配本 第1巻(あーか)

2006年9月上旬刊

カラー口絵40ページ+本文614ページ

鑑定の手引きとなる総論(50ページ)を収録!! 皇室の書法、狩野家の鑑定法、雅宗の鑑定法、書画の見方等をわかりやすく解説。

ISBN4-336-04787-1

第2巻(かーき) カラー口絵+本文586ページ 2006年12月中旬刊  
ISBN4-336-04788-X

第3巻(くーさ) カラー口絵+本文600ページ 2007年3月上旬刊  
ISBN4-336-04789-8

- 第4巻(さーし) ISBN4-336-04790-1
- 第5巻(しーた) ISBN4-336-04791-X
- 第6巻(たーて) ISBN4-336-04792-8
- 第7巻(とーは) ISBN4-336-04793-6
- 第8巻(ひーほ) ISBN4-336-04794-4
- 第9巻(まーわ) ISBN4-336-04795-2
- 別巻1 総人名五十音索引 ISBN4-336-04796-0
- 別巻2 総人名画引索引、別号索引 他 ISBN4-336-04797-9

各巻 カラー口絵付、索引付き ※各巻の構成は、変更される場合があります。

◆B5判・上製クロス総貼り函入 ◆各巻 平均600ページ  
カラー口絵40ページ ◆第3巻以降 年3回配本予定

各巻 29,400円(税込)

◆発行  
国書刊行会  
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15  
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427  
http://www.kokusho.co.jp

取扱店

国書刊行会

## 刊行にあたって

有名画家の作品とされるものうち八十%ないし九十%が贋物であるにもかかわらず真筆として横行している今日、真贋区別の手引き、事典が渴望されて来た。鑑定とは、作者の明らかな作品、作者が不明な作品、伝承の作品、偽造の作品を区別するものであるが、これには専門の知識と経験、厳しい掟がある。鑑定家は自己の藏品、親戚、縁者、知己、貴賤の別なく、贋物は贋物、真蹟は真蹟、不明のものは「わかりません」と毅然として、妥協は許されない。ましてや浅い知識で本物だ、偽物だ、などと論ずるべきではない。「鑑定家は如何なる会派、グループに所属してはならない。不偏不党を信条とし、義理、情実、利欲、売名を厳禁とし、貴権に媚びざること」が鑑定免許の条件である。

本書は故西村南岳老師の教導に従い、多年の研究及び全国的に古書画の鑑定会を重ね、その体験から文化遺産を後世に伝え、保存し、芸術性を評価し真贋判断の一助になれば幸いと三十年近い日時を要し完成した。執筆中、偶然知己を得た集英社の元社長中根氏からもこの原稿の貴重さを力説され、「ぜひ刊行したい」と大変勇気づけられたものである。

日本全国、朝鮮、台湾、アメリカ、中国の多くの愛好家、収集家から、ご提供頂いた数十万点の資料の中から、厳選の上、収録人員四万八千余、印影三万四千余、花押落款一万四千余の規模で伝記を収録した。

昨今の日本の芸術品や美術品に対する、世界的な関心の高まりの中で、自分の国の先人達が遺してくれた文化財や芸術品、美術品を後世に伝える為に、後進の道しるべとなり、愛好家や蒐集家の手引きとなれば幸いである。

平成六年十月二十日

城東野人

中野雅宗 識

## ◆ 本書の特色 ◆

- ① 読みやすい大きい活字(10.5ポイント)。
- ② 現在流通している書画、工芸品の作者のうち物語者を中心に四八〇〇名を収録。
- ③ 一般に流通している作家名を五十音順で配列。
- ④ 原則として、落款花押は原寸で、印章は朱色、原寸で掲載する。全国的に流通している偽印についても、〈偽印〉と明記して掲載した。
- ⑤ 各巻カラー口絵付  
・ 未公開の作品の中から厳選。  
・ 構図、画風を最もよく表わす作品や、逆に珍しい作品を収録。
- ⑥ 巻末索引付  
・ 本名、号、別名、通称等、収録の全ての名前を五十音順にまとめる。  
・ 読めない名前でも引けるように頭字の画数で引ける画引き索引も完備。



## 後世への遺産となるもの

元芝浦工業大学  
学芸員 丸山恭一郎

先端技術がもてはやされる今日において、文字を書くにも、絵を描くにもコンピュータが活用されている。確かに便利であるが、味気なく思い、「わび」「さび」の情緒が伴わないと感じるのは私のみではないと思う。

若輩にもかかわらず書画に興味を持ち、数点の物を手に入れ一人悦に入っている時期にあって、愚妻の「どうせ贋物でしょう」との冷やかな言葉を背に、大丈夫であるとの確証もなく、一抹の不安を抱きつつ中野雅宗先生を訪ねたのは十数年前のことである。

先生の鋭く厳しく妥協を許さない鑑定は、亡き師である西村南岳老の志を受け継がれている。その研鑽領域の広さと人格の豊かさが面識を重ねる毎に感じられ、所見を通しロマンを与えて頂いた。

連々の話のなかに、昭和三十五年(一九六〇)頃から、現代そして後世の書画愛好家に正しい知識を伝える事に意を決して本書を執筆中と伺っていた。苦節二十九年余にして平成元年に脱稿。

以後国書刊行会の尽力により、今日まで膨大な制作工程を経て出版に至ったことは誠に喜ばしい限りである。

原稿枚数約一万枚、掲載人名約四万八千余名、未公開実物写真約一千三百余枚、収集印の数約三万四千余の印影、花押落款一万四千余と聞く。掲載内容は他に類を見ない大規模な労作と云える。

この大事典は、真に求める人々より乖離した書画が出回っている今日にあって、良き「道標」であり、真贋の鑑定に迷う書画愛好家にとっての「手引」として、また学術的に寄与する「文献」として後世への遺産となるものと信じて止まない。

平成丙戌年皐月吉日



## 余人に為し難い貴重な業績

国登録文化財指定  
上野原大正館 阿部紀好

「日本書画鑑定大事典」の発刊に慎んでお祝申し上げます。

中野雅宗先生、国書刊行会の皆様にご敬意を表します。

中野雅宗先生は鑑定家の前に画伯であり名作を多く描いている。わが国最高の鑑定家、故西村南岳翁のもとで、厳しい修行を重ね、かつ全国行脚の鑑定会の実践活動を行なった上、遂に免許皆伝となり、わが国の芸術文化の発展に尽力された。数十万点の作品鑑定の結果の中から、資料収集を行ない、四十六年余の年月を費やして本書を完成された。

この事典刊行の意義は大きく、余人の為し難い貴重な文献といえる。本書は、正しい目と深い知識と経験が歴史を見通して遡り、文化の柱として道を過らせぬ道標たる役割を持つ灯明と謂える。雅宗先生は鑑定の基本に、作品それぞれに於ける時代の紙、絹、絵具、墨、流派別特徴、また表装等々の知識が深く、各作家のマチエールの研究にも並々ならぬものを持っている。

本書の刊行により、現今の乱れた美術界の中から、先人の遺墨や遠い時代の芸術品が、わが国の文化遺産として永久に保存され、次の世代に引き継がれるものと思う。また、学術的資料の選考の上にも、後進の研究者や美術愛好家の為にも役立つものと信ずる。

平成十八年五月吉日

〈本文の特色〉

落款・印譜——原則原寸で収録した。偽印は全国的に流布している中で最も多く見られるものを中心に掲載

見出し字——本書で他に収録されている読みを併記

柱——頁に収録されている頭字を列記



〈画引索引見本・原寸〉

項目の解説——名前には全てルビを付し、出身地、師名、没年、作品の傾向を解説

各項目の読み方——最も流通している読み方をとりあげる

〈五十音索引見本・原寸〉

在善——原ありし〔画〕 在善の四男、字は子至、天保七年(一八三六)四月十六日歿す、年四十六。

菅在満  
菅在満  
菅在満



有章——中島ありあき〔画〕 来章の子、天保八年(一八三七)京都に生る、父に圓山派の画法を学ぶ、明治三十八年(一九〇五)歿す、年六十九。

有章



あ 在・有

〈五十音索引見本・原寸〉

人名の頭字をゴシック体で明示

通称など本来姓とともに使われない名でも、カッコ内に姓を入れ、項目を捜しやすくした

作家本人が使った姓を適宜補う

収録人名の頭字を列記

(二画)又了力(三画)久及己才三山士子

Index table with columns for names and page numbers. Includes sections for 'あ 在・有' and 'さ'.